

問うことの楽しさを

「複雑で理解し難く、予測困難な時代」を生き抜く子どもたちは、与えられた問いに答えるだけではなく、自ら問いをもち、協働して解決に向かっていかなければなりません。

「どうすれば、自分も周りの人々もよりよく生きられるのか」

光村図書は、生徒が問いをもち、

他者と共に考える喜びを味わえる教材作りにチャレンジしました。



教材をもとに 自ら問いを立てる

道徳で大切にしたいこと

自分に問う

- 自分とは、どうしてそうなのか。
- 自分とは、どうしてそうなのか。
- 自分とは、どうしてそうなのか。

友達と問う

- 友達は、どうしてそうなのか。
- 友達は、どうしてそうなのか。
- 友達は、どうしてそうなのか。

生き方を問う

- 自分とは、どうしてそうなのか。
- 自分とは、どうしてそうなのか。
- 自分とは、どうしてそうなのか。

道徳で大切にしたいこと

- 自分とは、どうしてそうなのか。
- 自分とは、どうしてそうなのか。
- 自分とは、どうしてそうなのか。

2年 「道徳で大切にしたいこと」p.15

問題解決的なてびき

各学年の第二教材の後ろに、「自分に問う」「友達と問う」「生き方を問う」という三つの観点で、道徳の学び方を示しました。

現状を明らかにする

あるべき姿を洗い出す

理想像を導き出す

みんなで成功させよう

1年 「11 みんなで成功させよう」p.51

「よりよい学校生活、集団生活の充実」の教材では、問題を解決するために大切な3ステップを明示し、それに沿って道徳的価値に対する考えを深められるようにしています。解決に向けた話し合いの中で、互いに問い合いながら、みんなでよりよい考えをつくります。

チャレンジ 問いを立てよう

3 グループで問いの答えを話し合う。クラスで発表する。

1 一人一人が「問い」を作る。

2 グループで問いを練りあげる。

3 グループで問いの答えを話し合う。クラスで発表する。

4 道徳的価値について考えを深める。

5 自分自身の問いに立ち戻り、自分なりの答えを出す。

通常のでてびき

4 私がピンク色のキャップをかぶるわけ

5 自分自身の問いに立ち戻り、自分なりの答えを出す。

3年 「4 私がピンク色のキャップをかぶるわけ」p.21

チャレンジ 問いを立てよう

通常のでてびきに加えて、自ら問いを立てて考える「チャレンジ 問いを立てよう」というてびきを用意しました。どちらかを選んで取り組むことができます。三学年とも、生徒が道徳的価値からふれずに問いを立てやすい、「友情、信頼」の教材で考えられるようにしました。

複雑な問題が絡み合う、現代社会を生きていく生徒に、与えられた問いに答えるだけでなく、自ら問いを立て、考えていくことを促します。

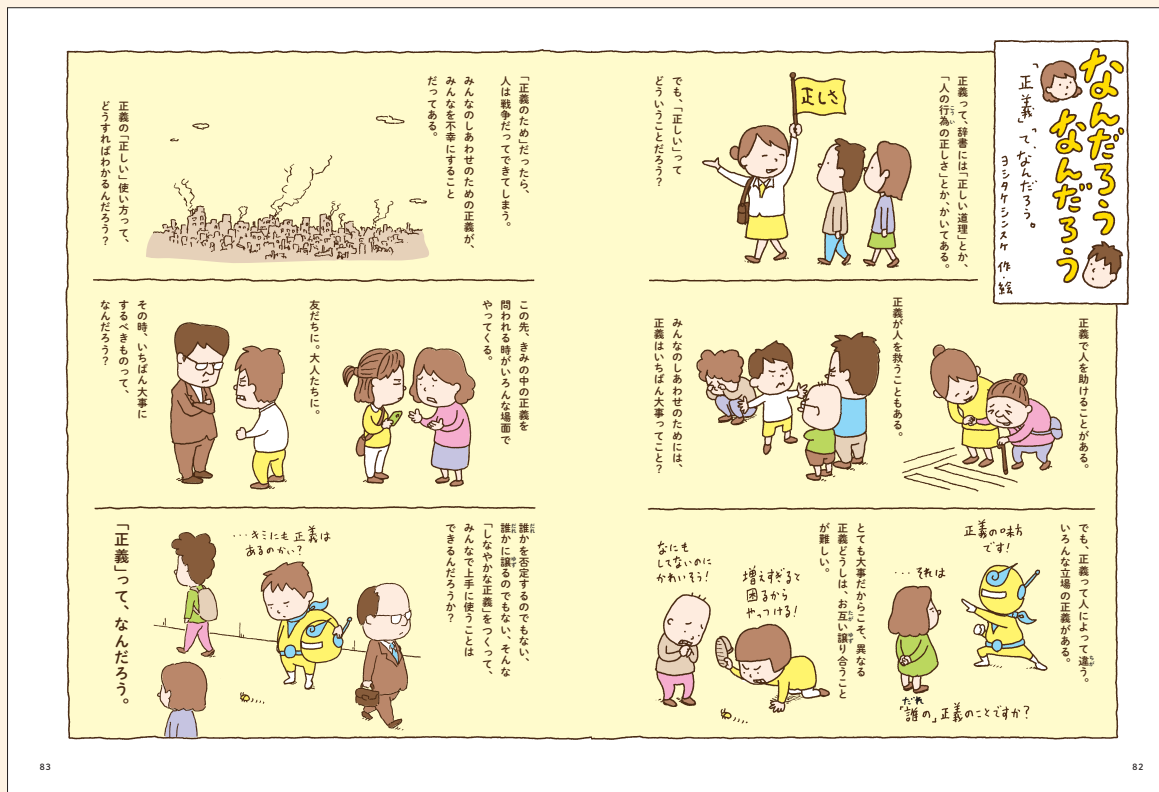
「問う」ことを楽しむ

問うことの楽しさを感じるためのしかけを用意しました。

「なんだろう」と問うことの楽しさ

全学年に、絵本作家のヨシタケシンスケさんの書き下ろし、「なんだろう なんだろう」を掲載。
難しいイメージのある哲学的な問いが、親しみやすい絵とわかりやすい言葉で示されており、生徒が、楽しみながら考えることができます。

1年『正義』って、なんだろう。」p.82 2年『ゆるす』って、なんだろう。」p.82
3年『自立』って、なんだろう。」p.84



1年 「なんだろう なんだろう 『正義』って、なんだろう。」p.82

問うことの日常化

「なんだろう なんだろう」の感覚を生かして、身の回りの「あたりまえ」を問い直し、みんなで答えを持ち寄って考えを深める。そんな対話を日常的に楽しむことができれば、そう願って生まれたのが、「今日の『てつぐく』」です。



1年 「今日の『てつぐく』」p.84

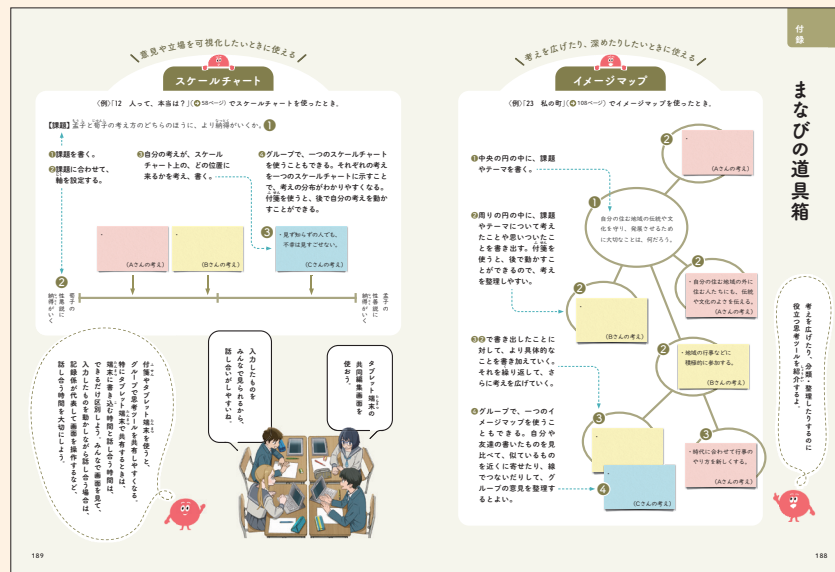


紹介動画

指導者用デジタル教科書(教材)

「今日のなんだろう」

指導者用デジタル教科書(教材)には、「今日の『てつぐく』」に連動した「今日のなんだろう」を収録しました。「スタート」ボタンを押すと、22枚の話し合いのテーマカードがシャッフル。「ストップ」ボタンでシャッフルが停止すると、話し合うテーマが表示されます。『「ふつう」って、なんだろう?』『友達、多いほうがいい?』など、くじを引くように楽しくテーマが表示されるので、朝のホームルームなどのちょっとした時間に活用することができます。



2年 「付録 まなびの道工具箱」p.188

思考ツールの活用

巻末の「まなびの道工具箱」では、問いに対する考えを整理したり、話し合いを活性化したりするのに役立つ思考ツールを紹介しています。